「自主・自律・連帯」3月号　～それぞれの夢に向かって～

校庭の木々の芽のふくらみにも、春の訪れが感じられる季節となりました。

地域・保護者の皆さま方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、３月に入り、中学校では卒業の時を迎えました。今年の卒業生は７５人です。それぞれが自分の夢に向かって力強く歩んでいってほしいと思います。

◇令和4年度学校アンケートを実施しました

明洋中学校では、毎年保護者の方々を対象に学校アンケートを実施しています。本年度は175人、全体の71.0%のご々に回答いただきました。いただいたご意見をこれからの教育活動に生していきたいと思います。

一部抜粋して紹介します。

A　よくあてはまる　　B　ややあてはまる　　C　あまりあてはまらない
D　まったくあてはまらない　E　わからない

項　目	A	B	C	D	E
「自主・自律・連帯」の校訓を生かした教育活動を行っている	40	49	2	0	9
教員は、楽しくわかりやすい授業している	32	46	7	2	13
学校は、いじめや暴力等の防止に努めている	41	46	3	2	8
学校は地震などの避難体制を整え、安全教育に努めている	45	45	3	0	7
子供の家庭での学習時間は十分である	19	37	27	15	2
学校のコロナウイルス対応はほぼ満足できる	48	42	3	2	5

◇ブラスバンド部　和歌山県ソロコンテスト

２月12日（日）和歌山市内おいて、和歌山県ソロコンテストがあり、２年生の木村心優歩さんがみごと金賞に輝きました。また、２月２５日に大阪府堺市である関西大会に出場します。

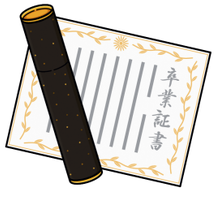
県大会は中学生の部に79名が出場しましたが、関西大会の出場権を得たのは紀南地方では、木村さん一人という結果でした。

○金賞　木村心優歩（きむら　みゆほ）【２年】　　楽器：フルート

◇第74回卒業証書授与式

３月７日（火）、本校体育館にて、第74回卒業証書授与式を行います。今年度は次のような形で行います。

○来賓は市長、田辺市教育委員会、本校育友会長のみ
○保護者の出席は、人数制限はなし
○在校生の出席は、２年生の代表のみ
○歌唱は、国歌・校歌は静聴、卒業の歌はマスク着用
○卒業証書授与は、各クラス男女代表１名ずつ
○マスクの着用について



・生徒及び教職員については、マスクを外すことを基本としますが、マスクの着脱については、個人の判断とします。

地域・保護者の皆さま方
本年度１年間ありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。
明洋中学校職員一同

公民館だより 令和5年3月号

西部

発行：西部公民館
館長　中西ひとみ　主事　津田祐司
電話：26-4925　FAX：25-6029
事務所：田辺市高雄一丁目23番1号
田辺市民総合センター内

西部スプリングクリーニング（田辺第三小学校　学社融合事業）

２月16日（木）、田辺第三小学校の学社融合の取組の一環として４年生の児童と保護者、地域の皆様方による「西部スプリングクリーニング」を実施しました。

当日までに児童たちは、参加者を募るチラシを地域に配りにいくなど、広報活動にも取り組んできました。また、紀伊民報の一面にも掲載していただきました。

当日は、「今日は何人来てくれるのかなあ？」という心配は吹き飛ぶくらい、続々と体育館前に人が集まり始め約40名の参加者がありました。

児童と参加者は８つのグループに分かれ、計画したルートを１時間で周りながら、ゴミを集めてきました。そして、集められたゴミの重さは何と・・・80kg❣

あまりの多さに、軽トラックがあっという間に満杯になりました。

最後には、児童の活動を聞きつけて「たなべぇ」も登場し、本当に楽しいひとときとなりました。

参加していただきました地域の皆様、保護者の皆様、田辺警察署の皆様、誠にありがとうございました。この事業を通じて、地域全体の意識の高揚につながり、子ども達のさらなる意欲の向上につながればと思います。

また、今回、児童及び参加者の皆様方に今後の活動のために青い火ばさみ（ブルートング）を贈呈しました。街なかでブルートングを見かけたら、是非労いと激励の程よろしくお願いいたします。

4月9日（日）は和歌山県議会議員一般選挙の投票日

任期満了に伴う和歌山県議会議員一般選挙は３月３１日（金）に告示、４月９（日）に投票が行われる予定です。

期日前投票等その他詳細につきましては、広報田辺３月号をご覧ください。

お問い合わせ　　田辺市選挙管理委員会（直通TEL0739-26-9945）

★マスクの着用について　令和5年3月12日まで

【屋外】

・マスクの着用を推奨するのは、他者と身体的距離（２ｍ以上を目安）が確保できない中での会話を行う場合のみです。

・それ以外の場面については、マスクの着用の必要はありません。

（例　公園での散歩やランニング、サイクリング、徒歩や自転車での通勤、屋外で人とすれ違う場面）

【屋内】

・マスク着用の必要がないのは、他者と身体的距離が確保できて会話をほとんど行わない場合のみ。

（例　距離を確保して行う図書館での読書、芸術鑑賞）

・それ以外の場面については、マスクの着用を推奨します。

【保育所・認定こども園・幼稚園等の就学前児について】

・２歳未満の子どもでは推奨されません。

・２歳以上の就学前の子どもについても、個々の発達の状況や体調等を踏まえる必要があることから、他者との身体的距離に関わらずマスクの着用を一律には求めていません。本人の体調がすぐれず持続的なマスクの着用が難しい場合は、無理に着用する必要はありません。

令和5年3月13日からマスク着用は個人の判断が基本となります

★本人の意思に反してマスクの着脱を強いることがないよう、個人の主体的な判断が尊重されるようご配慮をお願いします。ただし、以下の場合には注意しましょう。

〇周囲の方に感染を広げないためにマスクを着用しましょう。

・受診時や医療機関・高齢者施設などを訪問する時

・通勤ラッシュ時など混雑した電車・バスに乗車する時

〇ご自身を感染から守るためにマスク着用が効果的です。

・高齢者、基礎疾患を有する方、妊婦等、重症化リスクが高い方が感染拡大時に混雑した場所に行くとき

〇症状がある方、新型コロナ検査で陽性の方、同居家族に陽性者がいる方で通院等やむを得ず外出する時には、人混みは避け、マスクを着用してください。

【保育所・認定こども園・幼稚園等の就学前児について】

・２歳未満の子どもでは推奨されません。

・２歳以上児についても、マスクの着用は求めません。

併せて、基礎疾患がある等の様々な事情により、感染不安を抱き、引き続きマスクの着用を希望する子どもや保護者に対しては、適切に配慮してください。

田辺第三小学校 「清心自立」 2月号

❖　Pay　it　Forward（恩送り）

皆さんは、「恩送り」という言葉を聞いたことがありますか。これと似た言葉で「恩返し」という言葉があります。「鶴の恩返し」という昔話にも出てくる言葉で、これなら皆さん知っていると思います。

誰かに親切にしてもらった時、そのお礼にその人に親切にする、つまり親切を返すことです。

これが恩返し。恩返しをすることは、とても大切で素晴らしいことです。特に日本人は、昔からこの恩返しを大切にしてきました。それに対して恩送りとは、誰かに親切にしてもらったらそれをその人に返すのではなく、他の人に返すことです。

2001年に「ペイ　フォワード　可能の王国」という映画があったのを覚えている方はおらるでしょうか？

主人公が学校の課題に出された「世界を変える方法を考え、それを実行してみよう❣」に対して、ひとりの人が３人に何か良いことをします。良いことをされた３人が、またひとりひとり他の３人に良いことをするという「恩送り」を実行していくという話でした。こうして「善意のバトン」は、リレーされていき大きなうねりへと変化していきました。

科学に「バタフライ効果」という概念があります。チョウの羽ばたきという些細な変化が、遠く離れた場所の気象現象に影響しうることを示唆する言葉です。『複雑系 - 科学革命の震源地・サンタフェ研究所の天才たち - 』（著　M・Mワールドロップ新潮社）にこう書かれています。「テキサスでチョウが羽をばたつかせると、一週間後、ハイチ上空のハリケーンのコースが変化し得ることを知った」

こうした「小さな変化が、大きな変化を引き起こしたり、それに影響を与えうる」ことを「バタフライ効果」といいます。

「バタフライ効果」の存在は、自分のする仕事が例え小さなものであっても、何らかの変化を引き起こす可能性が常にあるのだと信じさせてくれます。この信念が仕事に対する「あきらめない心」を生み出します。

本校児童の「ごみを拾う」という小さな行いも、学級の仲間に広がり、学校そして地域へと広がっていきました。また、このことを知った多くの方がその「恩」を感じ、手紙で返してくれた方もおられます。

皆さんも是非、小さくても良いですから恩送りを心掛けてみてください。あなたが誰のために少し良いことをするだけで、その恩送りは誰かを幸せにすることができます。これって素敵なことではありませんか。

ありがとうございます❣　下校見守りサポーター

１月号で下校時の見守りサポーターを募ったところ、早速４名の方がサポートしてくださるようになりました。ありがとうございます。

下校時の児童の様子を見ていると、確かに横断歩道直前まで集団で駆け込んでくるので、運転者側から見ると危ないと感じました。また、上の山からカーブを曲がる付近は、見通しが悪いため、これも危険だと感じました。

サポーターの方々のおかげで、児童は横断歩道手前できちんと止まるようになっていました。

今後も無理のない範囲で、サポートよろしくお願いします。

【サポーター（２月20日現在）】

田中　幸恵さん　　亀田　章代さん　　坂井　雅子さん　　久保　有沙さん